

SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業 を結ぶ情報紙 — 地域版 —

発行
No.

26

発行日：2013年9月2日(月)

地域企業紹介 第26号

株式会社ホンマ電機

仕事に地域活動に 全力疾走！

電気設備の設計・施工・修繕を手がける株式会社ホンマ電機の本間俊三社長を相模原市南区上鶴間にある本社に訪ねました。本間社長は山形県鶴岡市の農家の三男として生まれ、地元の工業高校を昭和38年に卒業し、大手電機メーカーに就職する。スチール圧延装置の制御盤の設計などに携わるが2年ほどで退職し、中央大学理工学部電気工学科に進学している。大きな組織の中で決められた仕事をこなすことに生きがいを見いだせず、将来の起業を決意しての進路変更だったようだ。本間社長は昼間は授業や実験に追われ、夜間はアルバイトと忙しい中で第二種電気主任技術者の試験に合格している。

そして、同級生のほとんどが有名な大企業に就職していく中、将来の独立に備え従業員1名の小さな電気工事屋さんに就職する。今と違い大学進学率の低かった当時ではとても珍しい存在だったろう。ここでの2年間の勤務を経て変電所のメンテナンスを手掛ける会社に移っている。

昭和48年、同郷の知人の勧めもあり相模原市内でホンマ電気を開業する。本間社長と職人2人でのスタートだったそうだ。そして、現在は従業員20名、年商約3億円の企業に成長している。リーマンショックで売上も激減したが少しずつ回復し、今は順調に業績を伸ばしている。主な取引先はスーパーマーケット、病院、工場、マンションなどの事業系で売上の95%を占めている。相模原・町田周辺の中堅スーパーマーケット、テナントビル、病院など優良な顧客を数多く抱え、取引先は1000件以上あるという。

(2面につづく)



株式会社ホンマ電機

代表取締役 本間 俊三

所在地：相模原市南区上鶴間1-12-1

従業員数：20名 資本金：2,000万円

売上高：2億7千万円（平成24年度実績）

事業内容：事業系電気設備の設計・施工・修繕、空調・冷暖房設備設計・施行、緊急サービス、省エネ支援事業

ホンマ電機は新築物件はやらず、既設の物件に絞っている。強みは物件ごとに修繕記録が蓄積されたデータベースとそのデータベースの情報を反映させた部品のストック、そして、素早く対応するスタッフの存在だ。

「修理依頼の電話があれば、データベースに記録されている修理履歴から修理箇所や必要とする交換部品は判りますから、部品を持ってスタッフが直ぐに駆けつけます」と本間社長は言う。顧客のことを誰よりも知っている「電機のホームドクター」だ。また、自社で開発したデータベースはなかなかの優れもので顧客管理はもとより、工事毎のコスト管理、スタッフの配置などで大活躍している。今後さらにグレードアップし、顧客満足度の向上や収益性向上に役立てたいと考えている。

「経営者になって良かったことは」と聞いてみたところ二つの返

事が返ってきた。一つ目は顧客から感謝され、役立っているということを感じられること。やはり、仕事の達成感はあるのだらう。二つ目はいろいろな活動を通して地域社会に貢献できたこと。ライオンズクラブ、相模原市議会、NPO法人「さがみはら市民交番青パト隊」と幅広く活躍している。特に、本間さんが理事長を務めるNPO法人「さがみはら市民交番青パト隊」は昔から問題を抱えていたJR町田駅南口の風俗浄化と防犯に大きな成果を上げている。仕事に地域活動に全力疾走の本間さん、今後の一層の活躍を期待したい。



入居企業紹介

31

「安全を技術で創造する」

ステラ技研株式会社



写真2



写真1 相模原商工会議所での壁面走行試験

外壁走行作業ロボットの開発・設計、販売を主な事業として、垂直壁面自走ロボットを開発しているステラ技研株式会社(代表取締役社長 林健治氏)をご紹介します。

林社長は、外資系汎用コンピュータベンダーの日本ユニシス(株)(旧名、日本ユニバック(株))で、技術、マーケティング、商品企画職を歴任したのちに、同社を設立。技術の発展が著しく、建造物や公共社会インフラの高層化・高度化が進む一方で、それらのメンテナンスが人手で行われている状況に疑問を抱いていた。高所危険作業には不幸な事故が常につきまとうが、新たな技術適用による問題解決が必要と感じ、壁面自走ロボットの開発に乗り出した。

「今でこそやっと『高所危険な場所での作業ロボット』の必要性の議論が社会的に認知されはじめたが、しばらく前までは理想論として扱われることが多かった。東日本大震災などの不幸な事故を契機に、社会的な注目が集まっているが、この技術を進化させ社会の役に立つものにして行きたい。」と林社長は話す。

垂直壁面自走ロボット「天龍」は現在開発中の製品で4代目となる(写真1は天龍III)。無線操作で壁面走行ロボットを自走操作することができる。その他、電源なしにも関わらず、壁面に7時間程度連続吸着する、電動ハンディ吸着パッドも開発し、販売している。(写真2)

ロボットシステムが広く普及し、危険な作業による事故が無くなり、低コストで社会インフラのメンテナンスに貢献できることを目指している。垂直壁面自走ロボットの名称「天龍」には「龍のごとく天まで昇れ」という想いが込められている。

また、社名のなかのステラはラテン語のstella(日本語で「星」)に由来し、星に届く様な夢を実現したいとの思いの顕れである。

ステラ技研株式会社
Desk®
TEL : 042-783-4235
E-mail : hayashi@stella-rtec.co.jp
URL : <http://www.stella-rtec.co.jp/>

HISTORY of SIC

証言で綴るSICの歴史

有限会社 GMP 創房 取締役 前田 圭一郎

筆者は、10年以上にわたりビジネス・インキュベーション(以降B Iと称す)事業に係ってきました。S I C-1の構想・事業計画の策定支援やS I C-1の設計者選定プロポーザルでの審査員として係った1998年~2000年頃の記憶を掘り起こし、S I Cの事業としての特徴や係った専門家の素描によって歴史の証言とします。

■S I C-1は画期的&先駆的事业

S I C-1は、1980年代後半の大規模なB I事業=大手民間企業等の出資を源としたK S P(神奈川サイエンスパーク)やK R P(京都リサーチパーク)に代表されるB I事業とは異なり、地場企業や地場有志等と自治体が協働した地域密着型かつ小規模のB I事業の展開という観点から、画期的&先駆的なものでした。

B I業界では、前述のK S P、K R P、そしてS I Cが3大ブランドと言われることが多いのですが、S I Cは、K S P、K R Pと比較した場合、質的に全く異なるもの=『同業異業態』と考えるのが妥当でしょう。

また、リスクが高いと言われるB I事業に

おいて、S I C-2、S I C-3と事業拡大し、安定的に事業継続をしているS I Cモデルは高く評価されるべきでしょう。

S I Cへの見学者の多さは、まさしく、その証左と言えるでしょう。

■S I C-1に係った専門家集団=『関軍団』

S I C-1の構想策定と事業計画立案には、『西澤正樹氏(※1)』を中心にした専門家チームの関与がありました(筆者も含む)。

その専門家チームは、『関軍団(※2)』のメンバーでもあり、B I事業について高い専門性と志を有し、神戸市長田地区の震災復興支援(ケミカルシューズを中心とした地場産業復興)、大田区、三鷹市をはじめ、各地での主に公的主体によるB I事業立上の支援などを行っていました。S I C-1においても、その専門性は発揮され、S I Cの礎を整える一助となったのではないのでしょうか。

※1=現 亜細亜大学/同大アジア研究所 教授

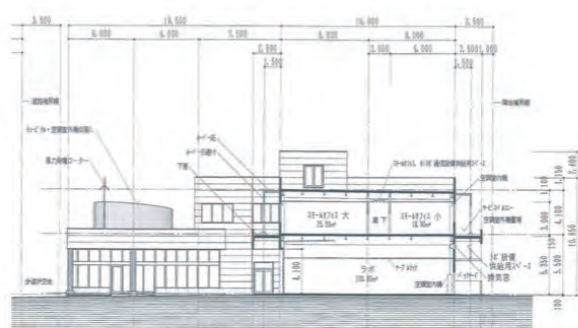
※2=関軍団は、『関満博氏(地域産業論・中小企業論/現 明星大学経済学部教授・一橋大学名誉教授/フルセット型産業構造を越えて(中公新書)など著作多数)』を中心に、地域産業振興、地域活性化等を目的に地域密着型の支援活動の特徴とする。

■S I C-1の3階建の理由=優れた設計者の存在

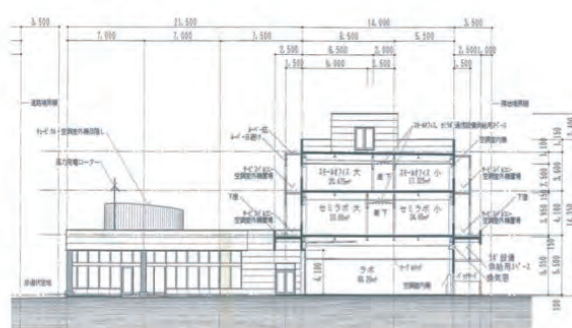
事業性の確保のためには工事費(初期投資)には当然上限があります。当初の構想段階では、S I C-1は2階建を予定していました。当時、同規模・同仕様の建物と比較してギリギリの額を工事予算として組んでおり、敷地面積と工事予算を勘案すると、2階建を前提にした施設規模が精一杯との想定をしていました。

ところがプロポーザルにより選定された設計者である『長崎克央氏(※3)』の知恵と工夫により工事費の圧縮に成功し、予算内で収益を得る事業床の増床ができることになりました。工事費は当初予算と変わらず、収益機会が増えるのですから、その事業性は大きく向上することになります。現在のS I C-1は3階建ですが、これは上記の設計者の優れた設計力とB I事業及び地場産業への深い理解の証でもあります。

※3=創夢設計(相模原市)/S I C-2、3の設計者でもあります。



基本設計初期段階A案=プロポーザル提案(2階建案)

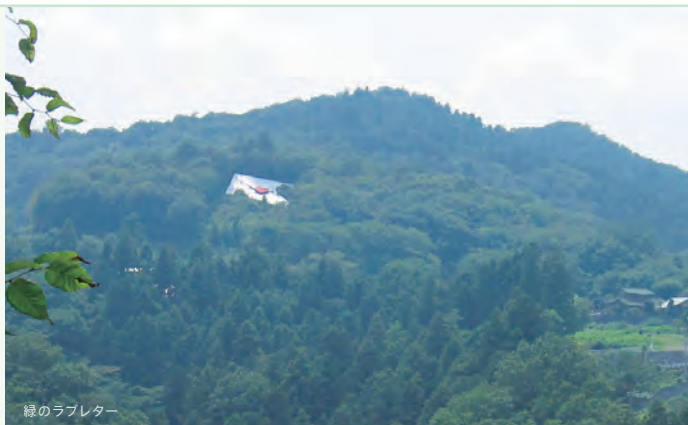


基本設計初期段階B案(3階建案)

(ち) とってもとっても ちいさな旅

お手紙、見えた?!

下り中央自動車道の藤野PAを過ぎてすぐ左手の山の中に見える手紙を確認する。中央自動車道を走る時のごあいさつ。平成元年に現れた緑の中の白い封筒に赤いハートのシールを貼ったラブレター。その名は「緑のラブレター」。もう25年にもなるのかと少し驚いています。運転手は見えない、見てはいけないお手紙です。藤野PAからも見る事が出来ます。高速を上野原の出口で降りて「芸術のまち藤野」へ向かい、藤野芸術の道を歩いてみる。涼しい秋に30の野外アート作品を見て歩くのは如何でしょうか。「山の目」にも逢えますように。



緑のラブレター

The HINT9 SICミニセミナー

○海外進出の留意点

○自社の技術を評価してもらうポイント

日時:平成25年9月17日(火) 14:00～16:30

会場:SIC-2 大会議室 定員:25名 参加費:無料

第一部	新興国進出の留意点と成功・失敗事例のご紹介 講師:日本貿易振興機構(ジェトロ)
-----	--

モノづくり企業が新興国に進出する際に、日本国内で事前に行うべき事や留意点等を解説するとともに、**成功・失敗例**を紹介します。

第二部	モノづくり企業の技術評価のポイント 講師:日本政策金融公庫(中小事業)
-----	--

中小企業は、最終製品を生産する事は少なく、その最終製品に組み込まれる一部品や、それに伴う設計や技術ノウハウを提供している事が多いです。その為自社の技術の優位性が「分かりにくい」事が多く、他社に理解や評価されない事が多くみられます。日本政策金融公庫には、ベンチャー・中小企業を評価する部門があり、どの部分に着眼点を置いて企業を評価しているのかを解説して頂く事で、自社の技術を他社に「**分かり易く**」アピールする**秘訣**を学びます。



第14回経営者セミナー(ビジネスと経営の実践者が語る)

テーマ「シリコンバレーから見た日本型ベンチャーの成長戦略」

講演者:曾我 弘氏(KAPION Partners代表)

～日本企業を退職してからシリコンバレーで20年。シリコンバレーと日本の「常識の相違」、進化を続けるシリコンバレーから日本の産業の現状はどのように映っているのか等。

日時:平成25年9月24日(火) 16:00～18:00

会場:町田新産業創造センター 1F

定員:80名(申込順) 参加費:無料

音のふしぎを体感しよう! マイスピーカー(子どもワークショップ)

普段私たちが耳にしている音、そもそも「音」ってなんだろう? スピーカーを作りながら、音の不思議を楽しく体験します。

日時:第4回 10月12日(土) 9:30～12:30 会場:SIC-3食堂

詳しくは、SICホームページをご覧ください。

SIC事業の報告

第1回 おやこでつくろう! カードケース&チャーム(子どもワークショップ)

平成25年7月27日(土) 定員の10組20名で開催。好きな布から、便利なカードケースとそのケースに付けられる可憐な押し花チャームを親子共同作業で完成させました。



協創プロジェクト

平成25年8月6日(火)、第3回協創プロジェクト交流会を開催いたしました。当日は、66社89名の方々に参加いただきました。第1部では、テレビ東京「ワールドビジネスサテライト」で放送されている「トレたま制作の舞台裏・採用のポイント」、聖マリアンナ医科大学の「医療現場発のニーズのご提案」の講演と企業からのアイデア発表等がありました。



さがみはら子どもアントレプレナー体験キャンプ

第13回を迎えた「子どもアントレ」も無事4日間の日程を終え、48名が修了証を受け取りました。8企業全て黒字決算でしたが、子ども達にとっては、それまでのプロセスが何よりの収穫ではないでしょうか。



2013.9- SIC EVENT CALENDER イベントカレンダー

9月14日(土) 子どもワークショップ第3回

9月17日(火) The HINT 第9回

9月24日(火) 第14回経営者セミナー

9月25日(水)～29日(日) 第4回SIC台湾ビジネスマッチング(於:台湾)

10月12日(土) 子どもワークショップ第4回

入居企業を募集しています。

SIC 空室情報 (9月2日現在) SICまでお気軽にお問合せください。(賃料:共益費込み)

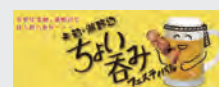
部屋	空室数	賃料(月額)
SIC-1 セミラボA (47.3㎡)	1	134,295円
スモールオフィスA (23.6㎡)	4	78,750円
スモールオフィスB (17.3㎡)	1	61,320円
SIC-2 セミラボ(50.2㎡)	1	164,850円
SIC-3 ※(オフィスB(21㎡))	1	48,510円

※書きについては、平成25年10月中旬より入居可

編集後記

毎年恒例の「さがみはら子どもアントレプレナー体験事業」が、今年オープンした「ポーノ相模大野」で最終日を迎えました。子ども達の声が、暑さに負けそうな大人に元気をくれたような気がしました。

さて、皆さん、SICスタッフは、5月の「第2回矢部・淵野辺ちょい呑みフェスティバル」に参加しました。2,400円(前売券)で3店舗のはしご酒が出来る美味しくて、お得で地域振興にも貢献できます。第3回は10月29日・30日が予定されています。街コンには参加できませんが、ちょい呑みは誰でも気軽に参加できますのでお勧めです。



(株)さがみはら産業創造センター(SIC)
〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21
電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077
E-mail: koho@sic-sagamihara.jp

ご意見・ご感想を
お待ちしております。

ウェブサイト <http://www.sic-sagamihara.jp/>